



平成 28 年 1 月 13 日

各 位

会 社 名 イ ワ キ 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 岩 城 修
(コード番号 8095 東証第一部)
問 合 せ 先 取 締 役 経 理 財 務 部 長 熱 海 正 昭
(TEL. 03-3279-0481)

(訂正)「平成 25 年 11 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、平成 25 年 7 月 10 日に開示いたしました表記開示資料について、一部訂正を行いましたのでお知らせいたします。

1. 訂正内容と理由

訂正内容と理由につきましては、平成 28 年 1 月 13 日付「過年度の決算短信等の訂正並びに有価証券報告書等の訂正報告書の提出に関するお知らせ」にて開示しておりますのでご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所は____線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、訂正箇所を含め訂正後のみ全文を記載しております。

以上

(訂正後)



平成25年11月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月10日

上場会社名 イワキ株式会社 上場取引所 東
コード番号 8095 URL <http://www.iwaki-kk.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩城 修
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 熱海 正昭 TEL 03-3279-0481
四半期報告書提出予定日 平成25年7月12日 配当支払開始予定日 平成25年8月9日
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
四半期決算説明会開催の有無: 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年11月期第2四半期の連結業績(平成24年12月1日～平成25年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年11月期第2四半期	25,673	△0.3	479	△24.1	552	△18.9	337	△1.1
24年11月期第2四半期	25,753	△5.4	631	△16.3	680	△14.3	340	△77.0

(注) 包括利益 25年11月期第2四半期 635百万円(83.7%) 24年11月期第2四半期 345百万円(△77.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年11月期第2四半期	9.98	—
24年11月期第2四半期	10.09	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年11月期第2四半期	35,075	16,304	46.5	482.67
24年11月期	35,185	15,771	44.8	466.83

(参考) 自己資本 25年11月期第2四半期 16,304百万円 24年11月期 15,771百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年11月期	—	3.00	—	3.00	6.00
25年11月期	—	3.00	—	—	—
25年11月期(予想)	—	—	—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 平成25年11月期の連結業績予想(平成24年12月1日～平成25年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	53,200	2.4	900	△20.1	980	△24.2	600	△17.6	17.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。
詳細につきましては、添付資料4ページ「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご参照願います。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年11月期2Q	34,147,737株	24年11月期	34,147,737株
② 期末自己株式数	25年11月期2Q	367,029株	24年11月期	362,348株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年11月期2Q	33,783,778株	24年11月期2Q	33,788,964株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の経済環境予想等の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成24年12月1日～平成25年5月31日）におけるわが国経済は、昨年の政権交代を機に積極的な金融緩和政策への期待が高まり、円高の是正や株式市場の持ち直しが見られました。しかしながら、欧州における財政問題や新興国経済の成長鈍化などを背景に、先行き不透明な状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループでは、事業基盤・事業規模の強化、拡大および収益構造改善を基本戦略としたグループ中期経営計画に基づき、海外サプライヤーとの連携強化や自社企画による商品の開発など、多様化・高度化するお客様のニーズへの対応力強化に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は256億7千3百万円（前年同期比0.3%減）、営業利益は4億7千9百万円（同24.1%減）、経常利益は5億5千2百万円（同18.9%減）、四半期純利益は3億3千7百万円（同1.1%減）となりました。

次にセグメントの概況につきご報告申し上げます。

【医薬品事業】

医療用医薬品市場におきましては、平成24年4月に実施された後発医薬品使用促進策における「一般名処方加算」の追加、「後発医薬品調剤体制加算」の見直しなどにより、引き続きジェネリック医薬品市場は拡大傾向にあります。

このような状況のもと、医療機関および調剤薬局への情報提供活動が功を奏し、新製品の発売もあり、主力の外皮用剤が大幅に伸長いたしました。また、受託品も好調に推移いたしました。

一般用医薬品市場は、春先に花粉の飛散量が増加したことにより鼻炎治療薬、目薬、マスクなどの花粉関連商品が伸長いたしました。また、解熱鎮痛剤は伸長いたしました。また、風邪薬、胃腸薬などが低調であり、全体では横ばいで推移いたしました。

このような状況のもと、一般用医薬品および関連商品は、自社企画によるPB商品の提案などを中心に新規取扱品の開拓と販売促進活動に注力いたしました。その結果、新規取扱品が堅調に推移いたしました。また、うがい薬は低調でしたが、主力のビタミンC原末や提携品は好調に推移いたしました。

この結果、当事業全体の売上高は83億5千3百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益は4千9百万円（同110.6%増）となりました。

【医薬品原料・化粧品原料事業】

医療用医薬品原料市場におきましては、医薬品事業において記載いたしましたとおり、後発医薬品使用促進策によりジェネリック医薬品原料の需要は拡大傾向にあります。

このような状況のもと、ジェネリック医薬品原料の需要の拡大から、抗不整脈用剤原料や抗アレルギー剤原料などが伸長し、その他製品も堅調に推移いたしました。

一般用医薬品原料市場におきましては、急激な円安による原料の高騰もあり、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと、積極的な営業活動に注力した結果、主力の血管収縮剤は国外、国内ともに好調に推移いたしました。また、ビタミン剤原料は低調に推移いたしました。また、受託の医薬中間体は大幅に伸長いたしました。

化粧品市場におきましては、消費者の低価格帯商品への流れは定着化の傾向を見せており、中・高価格帯商品の回復は依然として見られず、厳しい環境下で推移いたしました。

このような状況のもと、化粧品原料は、新規取引先の開拓や取扱商品・受託加工品の拡大に向けた提案活動に注力した結果、順調に推移いたしました。

この結果、当事業全体の売上高は77億1千5百万円（前年同期比7.9%増）、営業利益は5億3百万円（同4.3%減）となりました。

【化成品事業】

電子部品関連市場におきましては、スマートフォンやタブレット端末が好調に推移しているものの、パソコンや液晶テレビは低調に推移いたしました。自動車関連市場におきましては、好調であったエコカーが、昨秋、補助金の終了以降落ち着きを見せましたが、軽自動車や商用車は堅調に推移いたしました。

このような状況のもと、表面処理薬品は、環境に優しい製品の拡販を積極的に行いました。その結果、チップ部品向け薬品の販売が好調に推移いたしました。プリント配線板・電子部品関連薬品は、スマートフォン、パソコンや液晶テレビ向けが低調に推移いたしました。車載部品向け薬品はエコカー向けが堅調に推移いたしました。輸入品を中心とした化学品原料は、特殊溶剤や汎用溶剤が堅調に推移したものの、表面処理薬品原料が低調に推移いたしました。

この結果、当事業全体の売上高は37億9千2百万円（前年同期比13.5%減）、営業損失は2千6百万円（前年同期は1億4百万円の営業利益）となりました。

【食品原料・機能性食品事業】

食品原料市場におきましては、為替変動により輸入価格が大幅値上げとなり利益を圧迫するなか、小売市場では消費者の低価格志向が依然として強く、厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと、主力の関連会社製品、天然調味料・農産加工品の販売、および新規原料納入・新規顧客開拓に注力いたしましたが、全体的に低調に推移いたしました。

サプリメント原料市場におきましては、美容、エイジングケアをはじめ、健康維持を目的とした原料の需要の高まりはあるものの、若年層の購買力が回復しない状況であり、市場全体では横ばい傾向が続きました。

このような状況のもと、通信販売会社をはじめ製造受託会社などへの美容・エイジングケアを訴求した原料の提案活動に注力するとともに、自社原料の新規採用拡大に努めましたが、既存の受託加工製品の伸び悩みがあり、全体としては低調に推移いたしました。

この結果、当事業全体の売上高は38億7千万円（前年同期比3.0%減）、営業利益は1億9千3百万円（同13.2%減）となりました。

【その他の事業】

当事業全体の売上高は19億4千1百万円（前年同期比3.4%減）、営業利益は6千4百万円（同12.3%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、総資産350億7千5百万円（前連結会計年度末比1億9百万円減）、負債合計187億7千万円（同6億4千2百万円減）、純資産は163億4百万円（同5億3千2百万円増）となりました。

総資産の減少の主な理由は、現金及び預金の減少8億7千3百万円、投資有価証券の増加6億9千万円によるものです。負債合計の減少の主な理由は、支払手形及び買掛金の減少4億8千7百万円、短期借入金の減少2億円によるものです。純資産の増加の主な理由は、利益剰余金の増加2億3千5百万円、その他有価証券評価差額金の増加2億4千4百万円、為替換算調整勘定の増加4千7百万円によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年11月期の業績予想につきましては、平成25年7月5日に公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり修正を行っております。なお、平成25年11月期通期業績予想につきましては、平成25年1月11日に公表いたしました内容から変更はありません。

詳細につきましては、平成25年7月5日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

（減価償却方法の変更）

当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年12月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,327,091	3,453,833
受取手形及び売掛金	13,956,067	13,655,649
電子記録債権	294,086	428,624
商品及び製品	3,052,608	3,009,567
仕掛品	740,538	899,714
原材料及び貯蔵品	592,081	632,402
その他	764,744	700,997
貸倒引当金	△55,088	△71,129
流動資産合計	<u>23,672,129</u>	<u>22,709,659</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,049,019	8,068,878
減価償却累計額	△5,283,668	△5,368,195
建物及び構築物(純額)	<u>2,765,350</u>	<u>2,700,682</u>
機械装置及び運搬具	7,200,654	7,282,249
減価償却累計額	△6,603,869	△6,613,225
機械装置及び運搬具(純額)	<u>596,784</u>	<u>669,023</u>
土地	3,419,539	3,419,539
その他	2,424,819	2,559,403
減価償却累計額	△1,727,030	△1,808,273
その他(純額)	<u>697,789</u>	<u>751,129</u>
有形固定資産合計	<u>7,479,464</u>	<u>7,540,374</u>
無形固定資産	340,781	379,268
投資その他の資産		
投資有価証券	2,530,847	3,220,979
その他	<u>1,391,263</u>	<u>1,454,620</u>
貸倒引当金	<u>△229,468</u>	<u>△229,766</u>
投資その他の資産合計	<u>3,692,642</u>	<u>4,445,832</u>
固定資産合計	<u>11,512,887</u>	<u>12,365,475</u>
資産合計	<u>35,185,016</u>	<u>35,075,134</u>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,118,349	8,631,123
電子記録債務	2,295,705	2,187,599
短期借入金	2,362,000	2,162,000
未払費用	1,172,816	1,157,136
未払法人税等	239,271	200,780
その他	538,305	679,499
流動負債合計	<u>15,726,447</u>	<u>15,018,139</u>
固定負債		
長期借入金	1,315,500	1,234,500
退職給付引当金	1,603,564	1,606,003
その他	767,543	911,721
固定負債合計	<u>3,686,607</u>	<u>3,752,225</u>
負債合計	<u>19,413,055</u>	<u>18,770,364</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,572,382	2,572,382
資本剰余金	4,206,965	4,206,965
利益剰余金	<u>8,815,926</u>	<u>9,051,566</u>
自己株式	△81,048	△82,030
株主資本合計	<u>15,514,225</u>	<u>15,748,883</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	308,644	553,079
繰延ヘッジ損益	7,051	13,765
為替換算調整勘定	△57,960	△10,958
その他の包括利益累計額合計	<u>257,735</u>	<u>555,886</u>
純資産合計	<u>15,771,961</u>	<u>16,304,770</u>
負債純資産合計	<u>35,185,016</u>	<u>35,075,134</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)
売上高	25,753,182	25,673,550
売上原価	20,310,655	20,306,899
売上総利益	5,442,526	5,366,651
販売費及び一般管理費	4,810,955	4,887,236
営業利益	631,570	479,415
営業外収益		
受取利息	2,306	3,120
受取配当金	15,237	16,421
受取賃貸料	38,227	41,430
受託研究収入	31,715	40,366
その他	45,288	40,698
営業外収益合計	132,774	142,037
営業外費用		
支払利息	26,677	22,701
シンジケートローン手数料	14,718	14,926
持分法による投資損失	2,161	4,190
賃借料	17,520	21,900
貸倒引当金繰入額	14,689	—
その他	7,661	5,303
営業外費用合計	83,429	69,020
経常利益	680,915	552,432
特別利益		
固定資産売却益	86,330	—
投資有価証券売却益	—	1,886
特別利益合計	86,330	1,886
特別損失		
固定資産売却損	2,555	—
固定資産処分損	6,993	7,099
ゴルフ会員権評価損	3,260	—
投資有価証券評価損	2,472	—
特別損失合計	15,281	7,099
税金等調整前四半期純利益	751,964	547,218
法人税、住民税及び事業税	303,072	191,590
法人税等調整額	108,043	18,623
法人税等合計	411,116	210,213
少数株主損益調整前四半期純利益	340,848	337,004
四半期純利益	340,848	337,004

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年12月1日 至 平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年12月1日 至 平成25年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>340,848</u>	<u>337,004</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,975	243,657
繰延ヘッジ損益	△6,403	6,713
為替換算調整勘定	1,489	47,002
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,074	777
その他の包括利益合計	<u>4,987</u>	<u>298,150</u>
四半期包括利益	<u>345,835</u>	<u>635,155</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>345,835</u>	<u>635,155</u>

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年12月1日 至 平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年12月1日 至 平成25年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	751,964	547,218
減価償却費	354,713	370,205
持分法による投資損益 (△は益)	2,161	4,190
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	49,644	△5,750
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	15,221	11,259
受取利息及び受取配当金	△17,543	△19,542
支払利息	26,677	22,701
売上債権の増減額 (△は増加)	42,135	190,962
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△129,246	△144,422
仕入債務の増減額 (△は減少)	69,681	△533,098
未払費用の増減額 (△は減少)	13,604	△18,559
その他	△176,426	△85,674
小計	1,002,590	339,490
利息及び配当金の受取額	18,196	20,202
利息の支払額	△26,729	△22,974
法人税等の支払額	△423,011	△227,646
法人税等の還付額	8,351	30,534
営業活動によるキャッシュ・フロー	579,397	139,605
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△165,816	△180,088
無形固定資産の取得による支出	△22,075	△103,747
有形固定資産の売却による収入	168,350	—
投資有価証券の取得による支出	△3,576	△3,413
子会社株式の取得による支出	—	△304,176
その他	△27,726	9,110
投資活動によるキャッシュ・フロー	△50,845	△582,315
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△300,000	△200,000
長期借入金の返済による支出	△81,000	△81,000
配当金の支払額	△134,209	△100,369
その他	△33,314	△49,514
財務活動によるキャッシュ・フロー	△548,523	△430,883
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,818	20,342
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△17,152	△853,251
現金及び現金同等物の期首残高	4,337,207	4,191,572
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,320,054	3,338,320

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間（自平成23年12月1日 至平成24年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医薬品	医薬品原 料・化粧品 原料	化成品	食品原料・ 機能性食品	計				
売上高									
(1)外部顧客へ の売上高	8,216,133	7,152,742	4,385,389	3,989,758	23,744,023	2,009,158	25,753,182	—	25,753,182
(2)セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	57	193,130	—	—	193,187	5,263	198,450	△198,450	—
計	8,216,190	7,345,873	4,385,389	3,989,758	23,937,211	2,014,421	25,951,632	△198,450	25,753,182
セグメント利益	23,309	526,041	104,877	223,377	877,606	73,249	950,855	△319,284	631,570

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器等の販売、プリント配線板等の製造プラント、化粧品の製造および販売等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△319,284千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△318,219千円および棚卸資産の調整額△1,065千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医薬品	医薬品原料・ 化粧品原料	化成品	食品原料・ 機能性食品	計				
売上高									
(1)外部顧客への 売上高	8,353,491	7,715,599	3,792,118	3,870,914	23,732,123	1,941,426	25,673,550	—	25,673,550
(2)セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	30	227,897	42	—	227,970	3,756	231,726	△231,726	—
計	8,353,522	7,943,497	3,792,160	3,870,914	23,960,094	1,945,183	25,905,277	△231,726	25,673,550
セグメント利益 又は損失(△)	49,090	503,272	△26,084	193,993	720,271	64,218	784,490	△305,074	479,415

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器等の販売、プリント配線板等の製造プラント、化粧品の製造および販売等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△305,074千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△304,340千円および棚卸資産の調整額△734千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。